

## 特別展「鉢形城主 北条氏邦」 いよいよ開幕！

博物館 展示担当 学芸員 黒田千尋

令和6年3月16日（土）から5月6日（月・振休）まで、「鉢形城主 北条氏邦」と題し、特別展を開催いたします。

鉢形城は（公財）日本城郭協会が選定した日本100名城のひとつにも数えられる、城マニア必見の城です。お城好きに限らず、一度でも訪れたことのある方なら、その名城ぶりに納得のはず。というのも、この鉢形城は荒川と深沢川に挟まれ、急流によって削り出された断崖絶壁の上に位置しており、まさに天然の要害とも言うべき城なのです。鉢形城の名声は古く、室町時代後期に各地を遊歴した僧侶、万里集丸は鉢形城を訪れたときのことを、自身の漢詩文集『梅花無尽蔵』に「難鳥窺（鳥も窺い難し）」と記しています。

さて、今回の展覧会の主人公、北条氏邦は相模國小田原（神奈川県小田原市）を本拠とした小田原北条氏の一族で、16世紀後半に鉢形城の城主をつとめた人物です。氏邦は、鉢形城の管轄領域であった現在の寄居町周辺から秩父地域に及ぶ広大な鉢形領を支配しました。

本展の見どころとなるのは、氏邦とその家臣団が奉納したと考えられている法養寺薬師堂（秩父郡小鹿野町）の木造日光菩薩・月光菩薩立像、木造十二神将立像です。



この仏像群が氏邦とその家臣団奉納と考えられる根拠は、足柄の墨書にあります。足柄とは仏像の足の裏についている突起状のもので、台座にしっかりはめ込むためのものですが、この部分に、奉納者名などの墨書が確認できるのです。特に十二神像の内、申神像の足柄には「旦那安房守氏邦本命星」とあり、このことから、氏邦の生まれ年が申年、つまり天文17年（1548）だと考えられる根拠ともなっています。今回の展示にあたって撮影した足柄部分の赤外線写真もパネルでご紹介予定です。十二神像なので、各像の頭部には子・丑・寅・卯…とそれぞれの動物を表したサインがついているのもちよっぴり楽しいポイント。ぜひじっくりご覧いただきたいです。これらの仏像群は令和元年から4か年かけて修理され、江戸期とみられる修理痕や後補彩色が除去されました。修理後初出品となる本展覧会では、奉納当時に近い姿によみがえった仏像群をご覧いただけます。

本展覧会では最新の研究成果をご紹介するとともに、鉢形城主として生きた氏邦の事績に注目します。長く時代を隔て、私たちに伝えられた氏邦の遺産とは…？…などというところ、ちょっとドラマチックすぎでしょうか。それでも、今回ご紹介する多くの文化財からは、鉢形城とそこに生きた北条氏邦という人物を、これまでよりも少しだけ身近に感じていただけるのではないかと思います。

今回は法養寺薬師堂奉賛会はじめ、多くの関係者にご出品いただきました。充実の内容は、展示を見てからの楽しみ、ということで…。皆様のご来館をお待ちしております。

## ◆会からのお知らせ◆

### 今後の会報の発行について 基本は「Web版」になります。

友の会の会報は今号（2024年2月）をもって印刷版の発行を終了します。次号・2024年4月以降は、基本を「Web会報」とし、ここ数カ月続けてきたような会員宛てに送信する「Eメール方式」によるデジタル会報を2か月に一度のペースでお送りする予定です。これは、発送費用の削減と作業の簡素化をはかるためですので、ご了解ください。なお、Eメールを使わない、あるいはインターネット・ホームページを利用しない会員のために、「ハガキ」でご要望を頂ければ郵送を行います。内容はWeb会報のプリントですので現在の会報とは形態が変わります。「ハガキ」は埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会あてにお願いします。

- 博物館からの寄稿や会員の皆様からの投稿は「Web会報」でも変わらず掲載できます。分量に縛られず、写真なども綺麗に掲載できますので、ぜひお寄せください。
- 毎年、12月と翌年2月には会費の「振替払込用紙」と新年度の「会員証」の送付がありますので、会報を印刷し、郵送による発送を行います。
- 定期的な会報とは別に、これまでお送りしていましたEメール形式でのお知らせは今後も必要に応じてすべての会員宛てに継続させていただきます。この会からのEメールに対しては直接の返信はとどきませんので、ホームページなどに記載してある<友の会への連絡フォーム>でご連絡ください。
- 【注意】Web会報や会報連絡Eメールが届かない、あるいは不都合がある方は<友の会への連絡フォーム>でご連絡ください。

### 今後の会の運営について

#### ●博物館ロビーの友の会「受付」について

2024年1月より博物館ロビーでの「友の会受付業務」を再開しています。原則として毎週日曜日だけになります。

#### ●事業について

講演会、見学会、クラブ活動などの諸事業につきましては、従来と同様に会報に情報を掲載して案内し、ホームページにも同様の申込フォームを設定します。企画は、詳細が決まり次第通知いたします。

### ◆開催した行事の報告◆

- ・2023(令和5)-12-14(木) 古文書学習会 市民館おおみや・集会室9
- ・2024(令和6)-01-10(水) 古文書学習会 市民会館おおみや・集会室8
- ・2024(令和6)-01-24(水) プレミアム講座 文化財とX線と一稻荷山鉄剣銘文発見あれこれー
- ・2024(令和6)-01-26(金) まち歩きクラブ 鴨川を歩く第1回ー荒川合流点から水判土付近まで
- ・2024(令和6)-02-08(木) 古文書学習会 市民会館おおみや・集会室9

### ◆今後の予定◆

(それぞれの規定にしたがってご応募ください)

- ・2024(令和6)-03-10(日) 古代文化を考える会 (第13回)
- ・2024(令和6)-03-16(土) 古道探索倶楽部 第40回古道を訪ねてー中山道に行く (第5回)
- ・2024(令和6)-04-12(金) 城南五山と自然教育園 (昨年10月募集の再企画)
- ・2024(令和6)-05-26(日) 友の会総会・講演会

◆イベント案内◆ (規定にしたがってご応募ください)  
 (各イベントの延期・中止などの情報はホームページに掲載しますのでご覧ください。)

【区分】	■ 古代文化を考える会 (第13回) ■
【テーマ】	高市天皇と長屋親王
【概要】	<p>『日本書紀』は「高市皇子」、それに合わせて『続日本紀』は「長屋親王」を「長屋王」としている。『日本書紀』は高市皇子の死を「(持統)十年(696年)七月、後皇子尊薨る。」と記す。ところが懐風藻には「高市皇子薨る後、皇太后(持統)は王・公・卿・士を禁中に引き入れて、継嗣を立てることを謀る。」とある。高市皇子が死去したので次の天皇を立てることを議論している。太政大臣・皇子が死んだとき「日嗣を立てる」とは言わないであろう。高市皇子は「天皇」だった。</p> <p>また『万葉集』では御名部皇女(妃)が「巻一77番」で「大君」、「巻二199番」で人麻呂が「大王」、と詠っている。高市皇子が「天皇」であった証拠である。だが『日本紀』「高市天皇紀」は『日本書紀』「持統紀」に変えられている。</p> <p>昭和61年から平成元年にかけて、奈良市二条大路南のデパート建設予定地(平城宮の東南角に隣接)の発掘調査が行われ、出土した3万5千点以上の木簡の中に「長屋親王宮 鮑大贄十編」の文字が入ったものがあつた。『令義解』には「親王」とは「天皇の兄弟・皇子を皆親王と為す。女帝の子も亦同じ。以外は並びに諸王と為す。」とある。長屋王の父高市皇子が「天皇」であつた物的証拠である。その長屋王は729年2月に誣告を受けて自害する—「長屋王の変」—。聖武系の皇位継承に不安が生じた状況の中で、藤原四兄弟が長屋王家(長屋王及び吉備内親王所生の諸王)を抹殺した政変で、一般的には藤原氏による、皇親の大官である長屋王の排斥事件とされている。しかし優れた血筋と力を持つ長屋王家を自身の皇位と子孫の皇位継承への脅威と見做す聖武天皇が引き起こした事件とする見方がある。「変」では天皇の警護に当たる六衛府が動員されている。また最近では長屋親王の排除より、吉備内親王と息子の膳夫王を滅ぼすことに主眼があつたともいわれている。</p> <p>この事件の発端は、『続日本紀』の記述によると従七位下の漆部君足と中臣宮処東人が「長屋王は密かに左道を学び国家を傾けんと欲す」と密告したことであつた。事後の738年、「語、長屋王に及べば墳して罵り」と、長屋王を「誣告」し恩賞を得ていた中臣宮処東人を大伴子虫が斬殺するという事件が起こつた。しかし子虫が厳罰を受けた形跡はない。『続日本紀』も「東人は長屋王のことを誣告せし人なり」と記している。今回と次回で絶大な権力を持っていた「天武王権」の滅亡に至る経緯をお話しいただく。</p>
【日時】	2024年(令和6年)3月10日(日)13時~16時
【場所】	埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂(東武アーバンパークライン(東武野田線)大宮公園駅下車)
【講師】	佃 收 先生
【費用】	参加費 500円、本代(早わかり「日本通史」)1,000円
【申込】	<p>A:[申込フォーム]                  B:ハガキによる場合:会員番号・氏名・住所・電話番号・「古代文化を考える会」の講演会参加を明記し、「〒338-0811 さいたま市桜区白楯776-5 齊藤 亨」宛お申し込みください。【締切期日:3月3日】問合:齊藤 048-853-6728</p>

【区分】	■ まち歩きクラブ ■
【内容】	城南五山と自然教育園(昨年10月募集の再企画)
【概要】	<p>(昨年10月募集の再企画ですが一部見学場所に変更があります)。城南五山とは、品川区や港区など東京の城南地区にある高台5ヶ所の総称で、JR目黒駅からJR品川駅にかけての地域です。池田山、御殿山、島津山、花房山、八つ山の総称で、江戸時代からそれぞれ由緒ある大名屋敷や大名出身の邸宅があつたことが命名の由来です。古くから高級住宅街として知られ、現在では城南五山はブランドエリアとなっています。</p> <p>それぞれの地域にはかつての庭園が公園として残っているものもあり、引き継がれた建物や地名だけを残すものもあります。またこの地の中央を通る旧道は旧東海道で、その名残の遺構を見ることができます。自然教育園は正式には国立科学博物館附属自然教育</p>

	園で、中世の豪族の館から江戸時代には高松藩主松平頼重の下屋敷、明治時代には陸海軍の火薬庫、大正時代には宮内庁の白金御料地と歴史を重ね、通常一般の人々が入ることができなかつたために、まれに見る豊かな自然が残されました。
【行程】	J R 品川駅（中央改札前に午前10時集合）→八ツ山橋→御殿山→雉神社（日本武尊と大鳥信仰・徳川家光ゆかりの地）→二本榎通（古東海道筋）→高野山東京別院（休憩）→緑地公園で昼食休憩→高輪消防署二本榎出張所・黄梅院・承教寺・赤穂浪士忠烈の跡→覚林寺（清正公）→ゆかしの杜（港区立郷土歴史館・休憩）→池田山公園→花房山通り→自然教育園（65歳以上無料＝要身分証）→目黒駅（解散）
【その他】	段差のある場所を合計3～4時間ほど歩きます。食事は各自ご用意ください。
【日時】	2024年（令和6年）4月12日（金） 10時～15時頃 （予備日＝4月13日（土）10時～） 初めての試みとして翌日を「予備日」とします。開催日が雨風など悪天候で中止の場合、予備日に変更します。開始時間や内容は同じです。予備日への変更は2～3日前までにEメールとホームページで連絡します。予備日に参加できる場合、連絡欄に「予備日にも参加」と記入をお願いします。
【集合】	J R 京浜東北線・山の手線 品川駅中央改札前 午前10時
【費用】	交通費は各自負担。保険と参加費用：300円
【申込】	[申込フォーム]より申込
【問合せ】	090-1990-4807 つくい

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会の総会（午後には講演会）を以下のように開催します。

日時： 2024年（令和6年）5月26日（日）10時～11時30分

場所： 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

内容： 2022～23（令和4～5）年度事業・決算報告  
2024（令和6）年度事業計画・収支予算案  
役員改選 その他

午後（13：30）は講演会になります。

・講師 ものづくり大学教授 横山晋一先生 テーマ 「日本の寺社建築—その保存と将来」（仮）

\* 講演内容は予定です。4月号の詳細発表後にお申し込みください。

友の会への連絡は「指定のフォーム」をお願いします。  
博物館主催の行事は、直接、博物館に連絡をお願いします。

友の会の活動についての質問や参加の申し込みは必ず「友の会の指定のフォーム」から行うようにお願いします。また、埼玉県立歴史と民俗の博物館（以下博物館）自体が行う講演会や見学会については博物館の規定に従って連絡をしてください。

友の会は定款でその事務局を博物館としており、電話も博物館の番号を表示しています。これは博物館を応援する団体としての設立意義を示し対外的な立場を明らかにするためのものです。博物館に友の会の直接の担当者があるわけではありません。連絡が必要な場合は友の会ホームページに配置されている「専用フォーム」でお知らせいただければ返信ができます。葉書や封書などの郵便物につきまして「博物館内友の会」で確実に届きます。博物館への電話による取次手段も残してはありますが、基本的に友の会の行うイベントにつきましては、その都度、担当役員の電話を記載しておりますのでこちらへ電話をおかけください。